

信州大学マンドリンクラブ
同窓会会員 殿

信州大学マンドリンクラブ
50周年祭実行委員会
会 長 庄村靖弘
事務局長 古畑俊彦

新年の御挨拶

新春慶賀 昨年の3.11以降、今年は「めでたさも中くらいなり おらが春」（一茶）の心境です。

皆様にはつつがなく新春をお迎えのことと存じます。「創立50年になるのだから」と鞭あてられて、松本市美ヶ原温泉に集まって久方振りの同好の士の集い以来、はや1年余の歳月が流れました。一方で50年の歳月は流れはしたものの、脈打つギタマン精神に心躍るものがありました。以降、現役や若者世代が嫌がるのもなんのその、「まあいいではないか」精神で「1年前祭」そして「記念祭」の開催の年となりました。「Schön ist die Jugend」青春の宝物のような出会いと惜別の哀しみが再び出会いの音として淡々と流れます。



この際とばかりに再びマンドリンを手に、ギター弦を張り替えての手習い。そこはそれ、手習いとはいっても杵柄、昔の音が頭の中ではガンガンなっています。雀百まで踊り忘れずなんて言われてしまいそうです。もっとも「荒城の月」をやっても、孫どもは「なにそれ？」

で二の句も告げず、「叡智みなぎる」と歌っても「信大に学生歌あるの？」ときたもんだ。

しかしです。これではいけません、文化遺産の喪失というものです。もう一度響かせようと意気込むのは私たちだけではありますまい。

とまれ、50周年記念祭の年を迎えました。この期に再びマンドリン、ギターを手に何らかの形で交流と社会参加をしようではありませんか。まずは国内の松本で演奏して、発祥のイタリアに向けて海外交流演奏を目指しましょう。

会員の皆様の健康とかつての栄光の音を超える年輪の調べを祈念しています。

